

シリアへの軍事攻撃

NO!



日本共産党

日本共産党の志位和夫委員長は8月30日、「シリアへの違法な軍事攻撃の企てに強く反対する」と談話を発表しました。

談話のポイント

- 軍事攻撃の強行は国連憲章と国際法違反であり強く反対する
- 国連が中心となってシリアでの化学兵器使用をめぐる事実を明らかにし、国際社会が一致し化学兵器の廃棄を迫る解決の方向を示す
- シリア内戦にたいしては、政治的対話による解決にむけ紛争当事者を交渉の席につかせるあらゆる外交的努力を国際社会に求める

イラク戦争の教訓に学ぶべき

2003年のイラク戦争では世界に先駆けて小泉首相(当時)は「支持」を表明。しかし攻撃の「理由」とされた大量破壊兵器は発見されず、一方的な侵略戦争だったことが明白になりました。このイラク戦争の教訓に学ぶべきです。

各国の駐日大使館などに働きかけ



日本共産党の国会議員団は、各国の駐日大使館などに志位委員長の談話を届け懇談しています。井上さとし参院議員は、メキシコ、ロシア、韓国の各大使館を訪問。「ロシアとして歓迎したい、内容は100%承知している」など共感が広がっています。

“国会の議論不要”

「米介入を支持」

自民・石破幹事長

自民党の石破幹事長は8月31日、シリア情勢について米軍の軍事介入を支持すべきだとの考えを示し、「国会での議論が必要だという性質のものだとは思っていない」と指摘。露骨なアメリカいなしの姿勢を示しました。

● 真実がわかる 明日が見える—「しんぶん赤旗」をぜひお読みください。(日刊紙3400円/日曜版800円)

国政事務所ニュース

2013年
9月号外

発行：日本共産党国会議員団愛知事務所
〒460-0007 名古屋市中区新栄3-12-27 電話052-261-3461
日本共産党の見解を紹介します。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。